

一九五二年

千曲會報

第四五号

昭和二十五年三月十五日印刷
 印刷部 田口 亮平
 印刷部 中 沢 正
 印刷部 中 沢 正
 印刷部 中 沢 正
 印刷部 中 沢 正

第十二回本會總會開催さる

第十二回本會總會は昨年十一月二十三日全国各支部委員、本部地元會員總計六十名出席の下に開催され、本會運営問題を中心に活発な論議が行われ、第一、第二委員會まで設けて組織された結果決定された主なものは大要の通りである。會議終了後前例に倣つて母校教職員を盛大な懇親會が開催された。尚當日總務部顧問、初代校長故御長天郎先生の胸像除幕式が先生の拓務様の可憐な手にまつて行われ、職中供出された空しく残された旧本館前の胸像跡西側に再び先生の英姿を仰ぐことが出来る様になった。

記

一、本會運籌費の捻出について
 本會の運営については少くとも年廿万円以上三万五千程度を確保しなければならぬにもかゝらず、その後會費等の収入も漸増の傾向にあると申せ本年度も土三万円程度であり、そのため金報の如き三回発行予定の如く以前からの繰越の額があつたので、多少一回の発行が出来たが、残り一回は金報に代つて催費をもち

て御知らせせねばならぬ始末であつた。
 二、名簿の作成について
 多額の作成については總務部於ても確分論議され、その後理事會名簿作成担当者會議に於て検討された結果、大体左の方法によつて会報に優先して作る事となつた。

1、會議の組人については各支部に於かれても以上の御協力御努力賜ふ事の外二十五年度の未納會費については各支部に於て責任をもつて左の通り切替整理を願ふこと。
 未納會費 要納入會費
 三百円以上 三百円
 一百円以上 九十九円まで 二百円
 五十円未満は該金額
 右二の額に入して感へ事。
 2、次に比較的余裕のある支部から好意願ひて二百五十円として一口以上を維持費として御寄附願ふこと。
 3、前籌助金の規定の解釈を抜本會が三万円以内を附された者は本會に特殊の優待を有し、その趣旨に賛同した者とて籌助金に推薦するもの。

三、名簿の作成について
 名簿の作成については總務部於ても確分論議され、その後理事會名簿作成担当者會議に於て検討された結果、大体左の方法によつて会報に優先して作る事となつた。

歐米視察談

信州大学教授・理学博士・農学博士

八 木 誠 政

一九五二年八月十七日から廿四日迄オランダのアムステルダムに於て第十九回目的のインターナショナル・シンポジウム・オブ・エントモロギーが開催される事になり、

日本昆虫學會の代表として小生が又次目的の代表として渡渡歐視察は日本技術會議の経験に依り出席する事になり、他に北海道の桑山氏、新潟の同君二人八月十日

く多くを事
 6、委員長責任をもつて必要郵數を節約する事
 三、フランス世話人の設定について
 本會の横の連絡を密にして會員の動向のより以上の正確を期する意味に於て、新にフランス世話人を設定する事となつたその後の理事會に於て理事長から委嘱されたフランス世話人 職表を後に掲げる。
 四、進會制度修正について
 従事勤業科勤業科卒業生進會員とする規定があつたが、母校を大學となつて男女共学となり、尚且差別科が開設された今日では進會員の制度は廃止した方がよいと思解がこれに際して旧理事教職科卒業生、要別科卒業生、職中生及び現業の修業者は遂に正會員となる事 決定した。

目に羽田港からBOAC社の飛行機を出発した。途中那覇に寄陸して香港に午後四時到着一泊の後翌朝出立海船を右に見て印度支那に入りバンコックに立寄り直ちに立つてラングーンへ、次でカカッタにステアしてそれから夜間飛行となり十層近くカラチに宿き真夜中に飛び立つてバスマラに四時着、五時に立つてアラビヤの砂漠を横切リスエズ運河を渡りカイロに到着(九時)十時着船中海をイタリに向いローマに三時着四時出発スキス・アルプスの氷河を下に眺めつ夕食を終りシエネアの上を通過しフランスに入り電燈の光り始める頃パリの真上を通過し、夕陽をドゥーバーを霧中に過ぎ八時半ロンドン郊外の空港に到着したのは十日午であつた。市内に入る迄は夕陽一時前を横しエヤ・ターミナルについて始めてロンドンの空気に接したわけである。

警告すれば廿四年前の十月末ロンドンのステーションを後間に出生してオランダ行き船に乗つたのであつた。今度は同じ所へ飛行機で行けるので昔の苦労はさうないわけである。十二日は入をうけてピカデリーサーカス附近からリッピンストリート・ハイドパーク等を案内してより大いに先輩ガリを乗乗したが、急激な空気の冷風に風邪気味となり十四日は一日静養し十五日オランダに同つてロンドンを出発した。再び此処に帰るつもりである。二階階後にアムステルダムに上つた。AETVAに先約通り泊る。オランダは一度目であり此の地をレンブラントの面を人物の方来訪し街を散歩後夕食を食べてエントレトに帰つた事を思い出した。アムステルダムは街の様に國際的な會議を開いており昔に比し大盛況になつた。
 十六日夕陽となるインデシエ・シユゼウムに行つて會員其他所定のプログラムを取取る。十七日は開會式が午後一時から盛大に行われた。
 會費は十四〇名であるが夫人運入れると八五〇名を越す盛況である。其夜一般會員のレセプションがあつた。十八日午前九時から十四分特別に正式な學術講演が始まつたわけである。
 小生は第一分科の形態學及び顯微の部に於て研究を発表した。顕微目には従来職目と顯微目の二面目になつてゐるが此れは三二面目として新に持持目を新設すべき事を主張したのである。其れは視能を基礎としての立論であるが丁度僑外金髪一号に其の論議を出してより別冊をもつて行つたので要後より分記したが遂に不足を来た。議長が大衆此の発表を驚愕、懸念を求められたのは今年度の代表として感へ光榮を感じた。小生の成功は其の夜極う意味で他二人から熱烈な擁護を受けたのは感無量であつた。
 廿四日返歐は概はられたが其の開始から午後、オランダ國主催の種々の歡迎會に出席して多忙を極めた。最後の夜は會員オベラに招待されホールは會員のみで満

された。其の夜は翌日の二時迄も別れのなごりを感じて...

廿五日にハリに向つて汽車で...

アメリカより歸りて

信州大学教授・日本芸術會議員・農学博士

蒲生 俊 興

先般渡米に際しては早由美さんと同旅立ちより...

★ ★ ★

ま。かつての慣れ向う街々は夕食の用意に出張マダムの機織...

の各社並に同僚諸兄からの御挨拶の賜物でありますから...

- San Francisco→Denver
Chicago→New York
Boston→Washington
New York→Chicago...

以上 1265 編
Ox N
Denver→Fort Collins→
Denver→Iowa City→St.
Paul.

以上 600 編

以上 9280 編

尚今回の私の渡米調査旅行の目的は、自分の専門が養蚕と養蜂と...

支部便り

栃木支会より

昭和三十八年八月二十日著
栃木支会簡報、昭和六年四月七日早登、雨より小山田恩水君に...

改選以上の効用を調査した事。
六、米田に於ける精製物の普及状況と製物の種類を調査した事。

以上の諸点に就いては同等の方法で追々同僚諸兄の御目に関連する御努力を願つて御禮に報いたいと思つてゐる次第であります。

退職記念資金募集

原田朝雄先生
古谷謙藏先生

両先生は専門学校の開設以来今日に至る迄、四十年の長きに亘り終始一貫母校の爲に勤められましな。誠意まじりては聊か謝恩の微意を表し記念品を贈呈したいと思ひます。何卒御賛成御金下さいませ。御願ひ申上げます。

昭和七年二月

九州大学経済学部内

原田、古谷両先生退職記念会
千曲会各員各位

募金事項

- 一、贈出金は必ず両先生別に御明記下さい。
 - 二、送附先 退職部千曲会(同封の振替用紙を御利用下さい)
 - 三、締切期限 四月末日
 - 四、記名簿の選定及贈呈方法は殆ど起人に御一任下さい。
 - 五、簿録の上は千曲会報上で御報告いたします。
- 原田、古谷両先生
退職記念会起人(いづは順)
水野 裕真 中田 太郎
中島 徳行 中島 彌
中島 満展 野口新太郎

大滝照太郎

患難たゞまもる性を致して吾に任へず、市井に置れて除生を遂り得るは諸の困難に處する処多し本日因らざる様君を代表として記念品の利にて大金を贈らる。或は斯の念のあらんかを恐れて一部の人人に其の心配の無用述べ備

きなる事とて驚きに堪えず。如何に処理すべきか愚案に際りし陳林君より諸君の意のあらんことを察せんと説き諭かざる。諸君の眞摯に難く致し心を改めて好意を致し深甚の謝意を表す。

昭和六年十月十一日

學位授與さる

△醫學博士大木毅は題に今論論文「細菌の増殖に関する研究」(英文)を北海道大学に提出し、昭和六年八月一日付を以て、醫學博士を授与されました。

△吉澤(加藤)教授は論文「素素炭水化合物之が毒菌による消化管内に産生する結核菌の増殖に關する研究」を九州大学に提出し、昨年七月十一日付を以て、醫學博士を授与されました。

△山崎博士(養一)は論文「現存林省東海林業試験場化学部主任技師」は論文「畑作物の澱粉に關する生理學的並に植物生理學的的研究」を九州大学に提出し、昨年七月十一日付を以て、醫學博士を授与されました。

△赤井久雄氏(養一)は論文「現存林省東海林業試験場化学部主任技師」は論文「畑作物の澱粉に關する生理學的並に植物生理學的的研究」を九州大学に提出し、昨年七月十一日付を以て、醫學博士を授与されました。

△安山寛一氏(養一)は論文「現存林省東海林業試験場化学部主任技師」は論文「畑作物の澱粉に關する生理學的並に植物生理學的的研究」を九州大学に提出し、昨年七月十一日付を以て、醫學博士を授与されました。

△石井光一氏(養一)は論文「現存林省東海林業試験場化学部主任技師」は論文「畑作物の澱粉に關する生理學的並に植物生理學的的研究」を九州大学に提出し、昨年七月十一日付を以て、醫學博士を授与されました。

△渡邊利治氏(養一)は論文「現存林省東海林業試験場化学部主任技師」は論文「畑作物の澱粉に關する生理學的並に植物生理學的的研究」を九州大学に提出し、昨年七月十一日付を以て、醫學博士を授与されました。

美々々授与されました。尚論文名を添付合せする旨が、今會同御報告する事が出発を被授意せられた。

上野正美君助命運動

再募金者芳名

- 一金五百円 伊藤武男、佐藤利一
- 佐藤泰太郎、清生俊、林貞三、倉沢英徳、山口定次郎
- 田口飛平、清水益一
- 一金五百円 町田博、岡田夫、竹久保康一
- 松尾卓見、小山長雄
- 田保康一
- 一金五百円 荻原清治、野口新太郎、野田田、坂口直三、白井美朗、中島彌、古平彌、松井善雄、田中一行、西山久雄
- 押金健吉、米沢廣吉
- 合計 五二〇〇円
- 累計 二六四九〇円
- 支出 一五〇七〇円
- (内訳)
- 直接運動費 一七六〇〇円
- 通信、謝礼、雜 七四七〇円
- 印刷費 一四二〇円

前理事長 中沢忠氏逝く

三百五十日親類知として前理事長中沢忠氏兼本報の客となつた。洵に痛惜の情に堪えない。

次に本会代表として社報に参列された林理事長の申請の概略を掲げ故人を偲びたいと思ふ。

甲 評

故中沢忠氏の北信生系株式会社社長に當り私と同郷千曲会を代表し一言謝辞を申上げた。君は大正三年母校第一回卒業生として片倉組に入り新業の經營を保持し、松代町に製菓工場を自費して先ず成功し、戦時體制に際し北信生系株式会社の創立に参画し現に業務取締役の重任を負ひ製菓協同會理事、労働顧問委員等幾多の公職に就かれてゐる事はよく人の知る処である。その間本会北信支部長更に本会理事長として職務を充つた。殊に専科大学資格運動に推進し、壯大な本部本館を建設し母校四十年祭に之を信州大学に寄贈せられる事数々の偉業を成し千曲会の活動に一段の進展を示されたるは中沢理事長の堅い信念に基く指導力の賜である。本会は同君を顧問に推薦し更に御指導願う事になつたのも故なきでない。過勞が原因か病を得久しく闘病生活に入られたのは誠に御同情に堪えないが、必ず余存して國家再建にいま一度盡したき御務から療養に方金の注意を拂われた甲斐あつて最近体量も増し食欲も加わり、此の分には本復の目途を信じていた処三月五日七時、僅か三分の間に、あえなく逝られたのは何心とも惜まれてならない。君は誠誠剛直の士、深く名刺を追わず、掙するに公金無私、凡そ世人との別を懸する所多々あつてを甲派流として片付けられたには余りにももつたない偉大な偉業と感じつゝ如何にして斯かる人格の

完成を遂げられたか、由て来る所が私には久しく謎であつた。最近又同君は職務の間にも書函の授受を絶たず、その中、数冊の圖書では居るの厚紙に到る迄同君の手になる作品の美事に驚き且つ之迄の謎の氷解するを望んだ。

即ち遊戯する興味を持つて専門教育を受けた知識と自負たしなむ美術的豊かな感情とにより自然に育まれた強い意志と信念とが生れたのである。同君こそ知識を西酒に身につけた完全人格の持主であつたのである。されば昼夜を別たぬ勤勞も同君にとつては遊技にも等しく同君の生活は即興藝術であつた。名刺に活潑な性格も雅情を持つて斷言振りの御家庭の奥ゆかしさもひなる敬し思われるのである。

五十九年の人生は長しとしなが同君の生涯は斯如く盡て充實してあり極めて立派であつた君以つて冥す可きである況や御家庭には遺志を継ぐ泉君以下三君のあに於てをやである。然るに千曲会も製菓業界も君の如き偉大な指導者を失う。國家社会の爲め眞に惜しまれ悲しき極みである。今英雄の前に立ちしめしめ一借りに五年の歳月を以つてし半分お借願つたら、そして共に築み共に語る日を憶たかつた」と思う私情甚だ切なるものがある。嗚呼

昭和七年三月十日
千曲会理事長 林 貞三

千曲会員名簿発刊のお知らせ

終戦後の混乱時に作製した名簿も其の後大分年数も経ち其の間に会員各位の住所にも多くの変更があり各方面から名簿発刊の要望がありました。費用の關係と実現しませんでした。今回万難を排して作成する事になりましたが、昭和二十六年年度代議員会決議、何れ費用がないので各位の協力がなければ実現出来ませんので左記の要領で予約募集の方法をとり発刊する事になりましたから、事情御了解の上至急御返文を御願ひします。

- 記
- 一、頁数 約二〇〇頁(本文) B
 - 一、版数 約二〇〇頁(本文) B
 - 一、価格 五百円(送料共)
 - 一、発行日予定 本年六月末
 - 一、希望者は前記代金を本会納振替(東京四三四一)又は小指為で至急御送り下さい。但し会員名簿代金を納記して下さい。
- 昭和二十七年三月廿日
千曲会勸諭部
代表 藤原 賢治

蠶糸別科第一回卒業

昨年本学部へ新設された蠶糸別科の養成コース(〇名)製糸コース(一〇〇名)の学生は三月十五日(一九五九年)専門教育を修めそれぞれ卒業し、業界の第一線に就職した。

生態學概説

理學博士 八木誠政編
製糸博士 三浦昌三編
養蠶講習 三浦昌三編
生物學及生態學研究會並に學生指導者(対する)参考書。日本最初の生態學成書。
執筆者 八木誠政・田口教授
野村教授・鹿嶋孝士
北沢孝士

千曲会クラス世話人名簿

(昭和二十七年二月一日)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| (養蠶科) | (製糸科) | (新織科) | (繊維化学科) |
| 一、瀧 俊一、伊藤 誠
二、筑 謙二、大暮 政平
三、八木 誠政、飯島 直
四、小林 啓四、伊藤 勢雄
五、浦田 勝五、味沢 泰造
六、榎井 南六、岡村 源一
七、久保田 賢七、石塚 忠之助
八、永田 平八、小宮山 大助
九、門平 潤九、土屋 茂一郎
一〇、藤原 昌一、小山 俊吾
一一、岩根 謙三、坂路 善一
一二、山口 定次郎三、菅田 潤
一三、高橋 博三、山越 茂
一四、竹内 喜喜、岡 清四郎
一五、堀玉 信三、柴野 賢助
一六、井沢 善三、中島 謙三
一七、田 肇三、茂原 重雄
一八、藤原 四郎三、藤原 隆人
一九、平尾 孝三、山崎 賢雄
二〇、清水 洗三、白井 清朗
二一、田 博三、岩本 賢次
二二、菅 直三、横内 豊彦
二三、岡 博三、種原 文郎
二四、戸塚 一三、山寺 豊一
二五、竹田 寛三、小松 忠雄
二六、小山 操三、飯永 隆
二七、藤原 茂三、岡田 広太
二八、松尾 寛三、藤野 正三
二九、古草 勲三、上石 隆郎
三〇、堀内 勲三、後藤 則孝
三一、清水 猛三、小本 賢勝
三二、広瀬 洋三、石川 博
三三、中康 武三、藤沼 茂
三四、馬場 賢三、廣入 広吉 | 一、飯島 雄一、北條 賢正
二、野口 新太郎三、小出 真人
三、小松 忠一郎三、武井 宏雄
四、榎井 隆夫四、今井 子男
五、岡崎 賢五、樋口 昭
六、橋本 和夫六、田 忠実
七、江野村 一雄七、藤 彬
八、小林 尚一八、中島 信三
九、竹内 方策九、清水 周
一〇、中村 信三郎(繊維養蠶科)
一一、岡 善四郎一、芹沢 晴朗
一二、菅田 正信二、徳永 雄治
一三、鈴木 一郎三、角田 定
一四、柴田 久四、松原 俊一
一五、小畑 啓助五、小林 隆人
一六、花岡 政康(製蠶養蠶科)
一七、阿久津 伊平二、三四五六九
一八、下田 純夫三、棚田 波
一九、川合 久年三、柳沢 孝三
二〇、遠藤 恒久七、米沢 はじめ
二一、若林 衛八、赤岡 敏三
二二、小林 隆雄三、西沢 かね子
二三、小野 貞雄(製蠶科)
二四、田中 宗一、岡沢 あき
二五、藤原 忠男二、合葉 寛美
二六、小出 倫平三、飯島 トヨ
二七、笠原 龍四、依田 隆江
二八、内海 隆三、山辺 幸三子
二九、山崎 美六、伊部 ミサ子 | 一、野口 一行三、岡田 一郎
二、藤原 昌一、藤原 正一
三、伊藤 信三、藤原 俊男
四、藤原 裕三、長谷川 潔
五、西村 謙次 | 一、飯島 雄一、北條 賢正
二、野口 新太郎三、小出 真人
三、小松 忠一郎三、武井 宏雄
四、榎井 隆夫四、今井 子男
五、岡崎 賢五、樋口 昭
六、橋本 和夫六、田 忠実
七、江野村 一雄七、藤 彬
八、小林 尚一八、中島 信三
九、竹内 方策九、清水 周
一〇、中村 信三郎(繊維養蠶科)
一一、岡 善四郎一、芹沢 晴朗
一二、菅田 正信二、徳永 雄治
一三、鈴木 一郎三、角田 定
一四、柴田 久四、松原 俊一
一五、小畑 啓助五、小林 隆人
一六、花岡 政康(製蠶養蠶科)
一七、阿久津 伊平二、三四五六九
一八、下田 純夫三、棚田 波
一九、川合 久年三、柳沢 孝三
二〇、遠藤 恒久七、米沢 はじめ
二一、若林 衛八、赤岡 敏三
二二、小林 隆雄三、西沢 かね子
二三、小野 貞雄(製蠶科)
二四、田中 宗一、岡沢 あき
二五、藤原 忠男二、合葉 寛美
二六、小出 倫平三、飯島 トヨ
二七、笠原 龍四、依田 隆江
二八、内海 隆三、山辺 幸三子
二九、山崎 美六、伊部 ミサ子 |

長平出 照次 七、北沢 九子
専修士 利政、八、土屋 壽子

勸諭部から御願ひ
別記の通り会員名簿を作成する
ことになりました。会費の住所
を必ず正確に記載したいから本人
の住所は勿論友人等は最寄りの所
に会員がおりきたら、進んで御
通知願ひまして正確な名簿の完成
に御協力願ひます。交際費等から
依頼致しました被世話人の各位
は御迷惑のこと存じますが、級
友の勸諭部調査の上至急御返御
通知願ひます。

千曲会勸諭部

職員人事

柳沢延助教授、元本校教授、其の後千曲会に移られたが再び本学
紡織科に御兼任になられた。
関根吉郎助手、十一月十二日死
亡。次身に詳細報告の予定。
石川博助手、本校養蠶科三回
卒業生、東北大学理学院卒業後、
田中松尾教授より製糸科勤務。
戸田元助助手、昭和廿四年広島
文理科大学理学部物理学科、名
古屋大学理学部上田研習室より本
学部新織科勤務。
村市新太郎助手、昭和廿年東北
大学工学部航空学科卒業、東大工学
電子顕微鏡研究室より本学木内研
究室勤務。
矢島久和実験室指導員、昭和
二十六年早稲田大学第一理工学部卒
本学部新織科勤務。

機 繭 煮 汽
川 品 京 東
所 業 工 機 蚕 中
善 路 坂 長 社

編集後記

△今回は終戦報告が主でしたが、
蒲生・八木両教授の記事を載せ伸
々なるものになりました。筆を厚く感
謝致します。
△愈々春四月又新学期を迎える時
になりました。吾々も編集部員を命
ぜられたことに當り、二年、会員
諸兄の念慮に対する批判は果して
如何でしょうか、予算面等に苦し
められ何ら思う様な事は出来ませ
んでしたが、限られた範囲で誠心
誠意をこめて来たつもりであり、予
私共の任期は後二年ですが御意見
等ありましたらどうぞお寄せ下さ
るようお願いいたします。

(他田記)

編集部理事 田口 肇平
編集部員 松尾 卓見
中康 武
田中 一行
榎井 謙雄
田中 豊美

会計部

千曲會費を 御納入下さい

千曲会入会金及通常會費各五百
円を各支店を通じて、又は本会へ直
接納め下さい。
尚本会へ直接納入の方は同割の
振替用紙を御利用下さい。